

事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 オバヤシ・ファン・プロジェクト実行委員会

1 事業種別	行政提案型 <u>自由提案型</u>
※行政提案型 事業テーマ	(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入)
2 事業名	小林エリア滞在価値向上事業
3 事業を行おうとした動機・必要性	<p>宝塚市・小林エリアは、阪急今津線小林駅から武庫川新橋にかけて旧良元街道を中心に広がる地域であり、昭和から続く商店や地域文化と、新たな店舗や若い世代の流入が共存する、歴史と新しさが調和した特有の雰囲気が魅力のまちです。</p> <p>一方で、エリアとしての明確な認知や情報発信が十分とはいえず、個々の魅力が点在している状態にとどまっています。その結果、来訪者の滞在時間は比較的短く、「通過されるまち」となっている現状があります。</p> <p>さらに近年、地域においては以下の課題があります。</p> <p>① 地域内におけるつながりの希薄化</p> <p>近年、小林エリアでは新たな住宅地の形成に伴い、子育て世代や若年層の流入が進んでいます。一方で、従来から居住する住民との接点が十分に生まれておらず、世代間の交流や地域内の関係性が希薄化しつつあります。</p> <p>また、こうした世代間をつなぐ機会や取り組みが限定的であり、既存の活動についても十分に認知されていないことから、地域内での関係構築が進みにくい状況にあります。</p> <p>② 来訪者と地域との接点の希薄化</p> <p>小林エリアを訪れる来訪者の多くは、特定の目的地を目指して訪れる傾向があり、地域内を回遊する機会が少なく、結果として地域の多様な魅力に触れる機会が限られています。</p> <p>その背景には、店舗やスポットが点在して認識されている一方で、通りとしての一体的な認知が不足していることが挙げられます。これにより、店舗間や地域全体のつながりが見えにくく、来訪者と地域との関係性が生まれにくい状況となっています。</p>

4 事業を行う目的と期待される効果

※審査基準のうち「効果の広域性」「独創性」「継続性」が判断できる内容を含めて記載してください。

4-1. 事業の目的

このプロジェクトでは、通りに名前をつけるプロセスそのものを、地域のきずなを育てる装置として活かします。世代や立場を超えて、まちの人たちが自然に関わり合えるような関係性をつくり、日常の中に溶け込む“ゆるやかなつながり”を継続した長期期間をかけて育むことを目的としています。また今後の目標として、小林という地域が「1日過ごせるまち」として、長期滞在できる場所になっていくことを目指しています。

地域の人たちが一緒に語れる「共通の呼び名」を世代問わず同じ市民として作ることで、地域内のつながりが深くなると考えています。

4-2. 事業の目的と期待される効果

- 多様な世代が参加し、交流および対話が生まれる機会の創出
 - 地域内の回遊性向上を通じた滞在時間の延伸およびにぎわいの創出
 - 地域店舗と来訪者との接点創出による継続的な関係性の構築
- 地域への愛着および帰属意識の醸成による関係人口の増加

5 申請までの検討経過

2022年4月

地域に還元できる事柄がないか、市民協働推進課に相談。きずなづくり補助金について教示いただく。

2024年11月

地域の親交を深める場を設けるため、「たからづか会議」というコミュニティを立ち上げる。

2025年2月、5月、12月

地域を盛り上げたいという仲間が集えるコミュニティを継続的に続ける。

2025年12月

地域を盛り上げるため、活動をひとつのプロジェクトにするための会合を開きたいという声が集う。

2026年4月

「小林」というまちがよりよくなるためにできる活動を思考、立案する。資金不足が判明。

2026年4月

実行委員、コミュニティの立ち上げ。町内の会長たちへ趣旨の説明、ご挨拶に伺う。

2026年4月

市役所のきずなづくり推進事業補助金の申請をする。

6 事業の内容

※実施時期、場所、回数、参加予定人員等を含めて具体的に記載してください。

6-1. 活動場所・期間・対象

- ・ 場所： 武庫川新橋手前～旧良元街道・小林駅周辺
- ・ 期間： 令和8年4月1日～令和9年3月31日
- ・ 対象： 小林エリア在住・在勤・来訪者すべて

6-2. スケジュールと「きずなづくり」要素

【実施回数】

- 名称募集：1回
- 投票イベント：1回
- 関連イベント：月1回程度（10月以降予定）

実施時期 / 主題	具体的な実施内容	きずな要素
4月～6月【現在実施中】 / 地域住民へのヒアリング	・老若男女の地域住民へのヒアリング	・地域の記憶を聴取、世代間交流の起点を探る ※1
7月 / 第1回投票 ネーミング公募	・オンラインにてネーミング公募 (Google フォーム) ・SNS 発信、チラシ配布	・チラシは協力店舗、小中学校、協議会事務局にも置かせていただき、年代問わずたくさんの方に手に取ってもらえるよう工夫。
8月 / 命名委員会立ち上げ	・命名委員会メンバーを10名選出 ・案の集計、管理 ・第2回投票に向け5案に絞る	・地域らしさや親しみやすさ、長く使っていけるかどうか、基準を設ける。その内容を年代問わないメンバーで協議することによる世代間認識の溝を埋める。
9月 / 第2回投票 地域回遊型ネーミング投票	・「投票券付き小林マップ」発行 →小林地域地図、最終候補案、投票券掲載	・第1回投票時、小林に興味をもった市民が実際に足を運んでもらえる仕組みづくり。
10月以降 / 最終結果発表 継続する地域コミュニティ	・決定した名称の浸透を図るための景品配布	・投票終了後もマップを手に地域回遊してもらえる限定景品の準備 ※2

※1. 現在実績：

- ・たからづか会議にて、「小林の魅力、よりよくできる点」ヒアリング済（約10名）。
- ・地域（高司、末成、事務局）まちづくり協議会会長ご挨拶済。
- ・6月、地元広報誌掲載予定。
- ・6月上旬、まちづくり運営委員会会合にて30名の参加者にご挨拶予定。

※2. 地域活動継続内容事例：

限定景品：決定した道の名称入りステッカーをご用意予定

公園清掃活動、看板の設置、フォトスポットの案内、雑誌掲載など、

今回できたご縁を定期的に継続・拡大させていくため月1度の活動を実施予定。